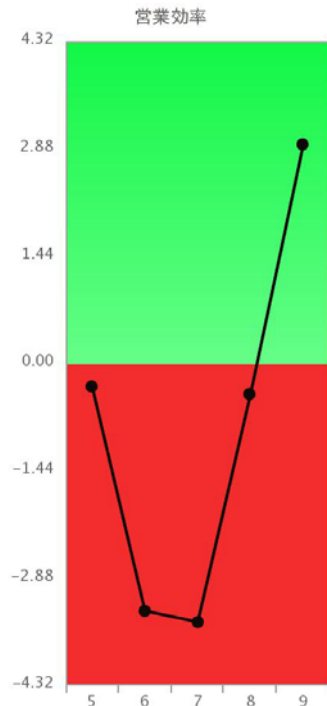
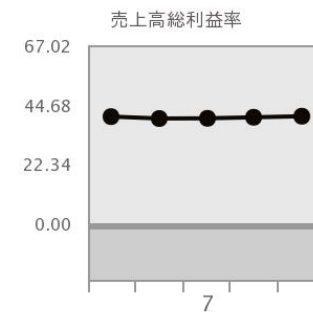
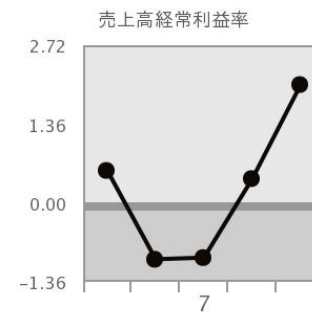
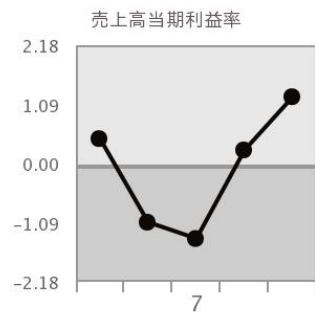


グラフで分かる経営分析

SPENDID21とは、会計学・統計学・認知科学・経営学を融合した財務分析です。財務諸表(貸借対照表・損益計算書)には多量の情報が含まれています。その情報を分析し、経営状態の兆候を『見える化』することで、企業の成長や危機回避のための意思決定を迅速に行うことができます。数字では見えづらい事実をグラフで分かりやすく把握することができます。



財務諸表を分析した結果(各指標)が総合評価を構成しています。総合評価の良い要因・悪い原因は指標のグラフを見ればすぐにわかります。



	5期	6期	7期	8期	9期
売上高合計	78,231	75,064	76,662	77,500	80,000
売上総利益	31,320	29,533	30,198	30,880	32,165
売上高総利益率	40.04%	39.34%	39.39%	39.85%	40.21%
営業利益	558	▲608	▲611	417	1,707
売上高営業利益率	0.71%	▲0.81%	▲0.80%	0.54%	2.13%
経常利益	440	▲729	▲720	326	1,634
売上高経常利益率	0.56%	▲0.97%	▲0.94%	0.42%	2.04%
当期純利益	360	▲809	▲1,056	196	980
売上高当期利益率	0.46%	▲1.08%	▲1.38%	0.25%	1.23%

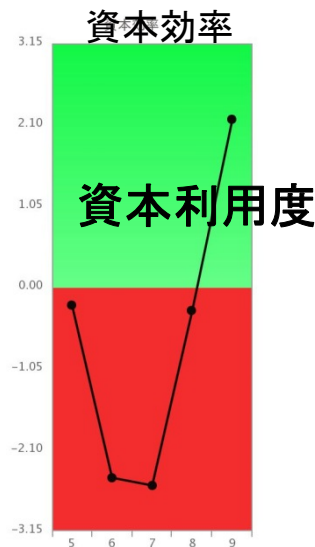
洋菓子店をモデルとした サンプルを作成しました。

もちろん、分析をすることにより知ることのできる各企業の情報はすべて違います。

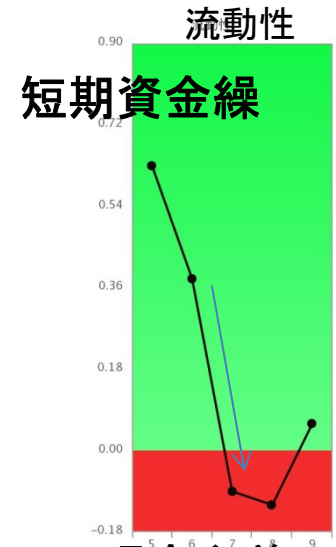
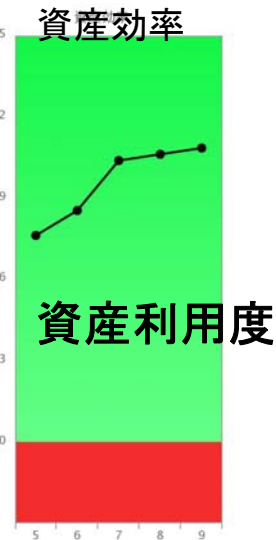
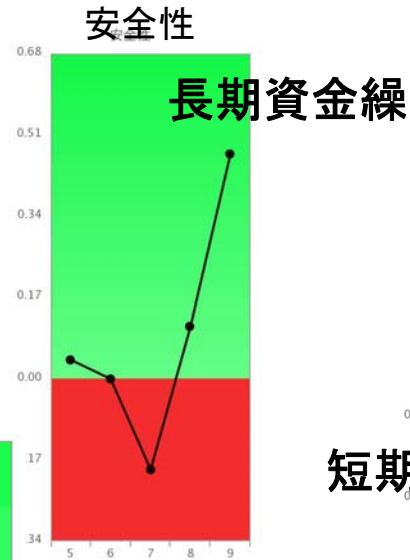
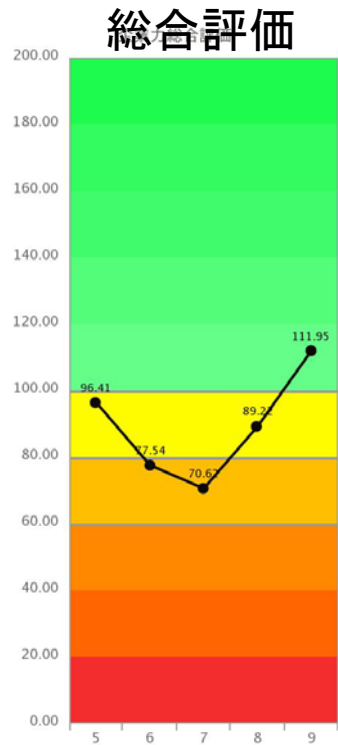
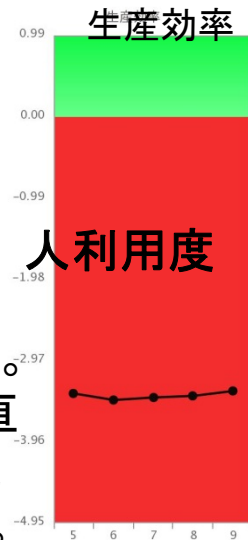
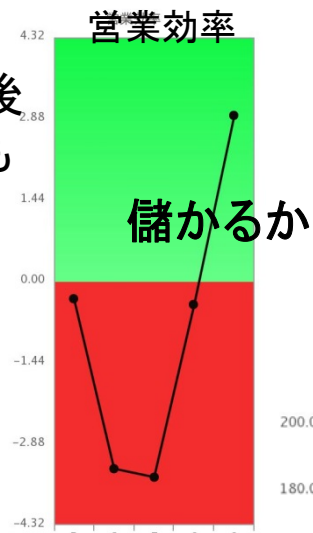
当事務所では、分析した情報をわかりやすくまとめお伝えしております。

グラフとコメントで経営状況を常に把握できる資料を作成致します。自社の情報をまとめ、目指している会社の有り方へ遠回りせずに進んでみませんか？

利益ができれば後
追いで流動性も
良くなる。

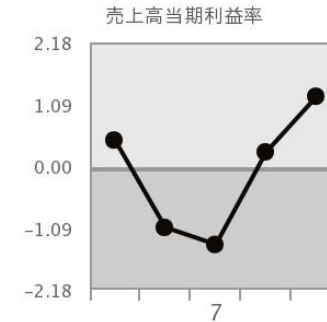
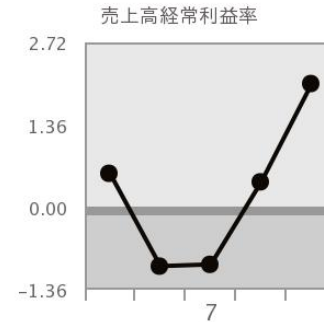
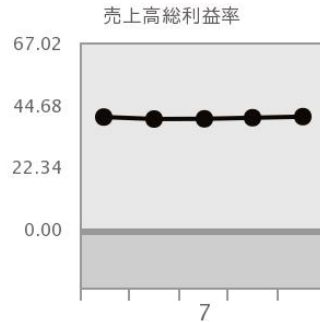
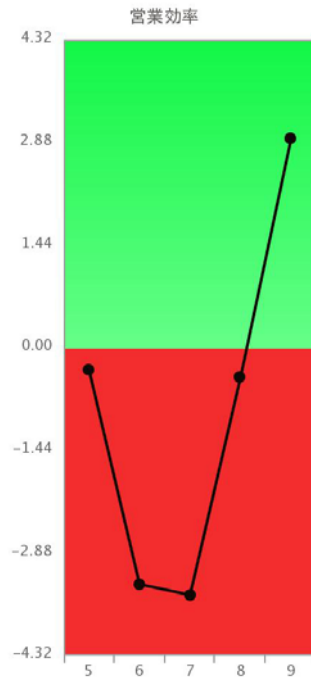


唯一の赤信号領域。
製造プロセスを見直
し改善することで他
のグラフも良くなる。



現金主義のため赤字決算が
そのまま影響。
短期資金繰りが悪化。

分析結果を6種類の指標とそれをまとめた総合評価の7種類のグラフで表します。
次頁以降で各指標の意味を含めたサンプル社の分析結果の一部を解説致します。

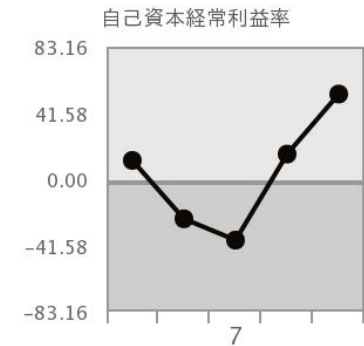
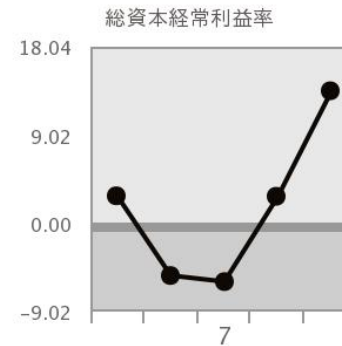
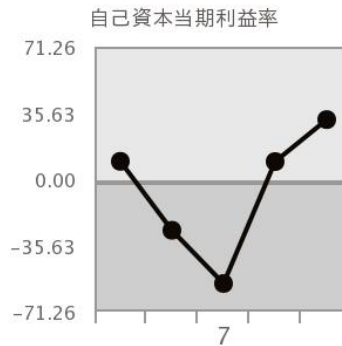
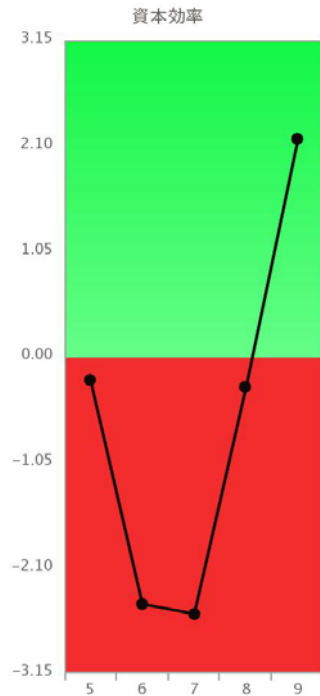


(単位: 千円)

	5期	6期	7期	8期	9期
売上高合計	78,231	75,064	76,662	77,500	80,000
売上総利益	31,320	29,533	30,198	30,880	32,165
売上高総利益率	40.04%	39.34%	39.39%	39.85%	40.21%
営業利益	558	▲608	▲611	417	1,707
売上高営業利益率	0.71%	▲0.81%	▲0.80%	0.54%	2.13%
経常利益	440	▲729	▲720	326	1,634
売上高経常利益率	0.56%	▲0.97%	▲0.94%	0.42%	2.04%
当期純利益	360	▲809	▲1,056	196	980
売上高当期利益率	0.46%	▲1.08%	▲1.38%	0.25%	1.23%

営業効率とは儲かる企業なのかを見る指標です。売上高総利益率(原価率)に大きく変動がないが売上高経常利益率・売上高当期利益率が右肩上がりに伸びている場合は、①商品を販売するための費用割合が減少・維持されている状態で売上を伸ばすことができている②特別(臨時)収益が発生したなどの原因が考えられます。数字を見ると営業利益が増加していることから今までよりも効率的(生産性の向上)に商品の販売がされていることがはっきりとわかります。

ABC分析による高利益率の商品販売に力を入れたのでしょうか？



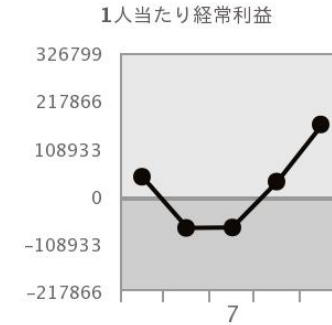
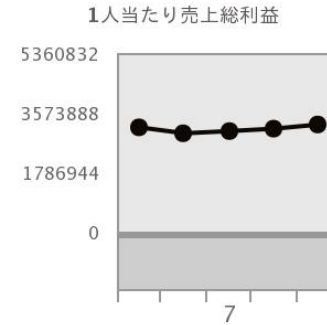
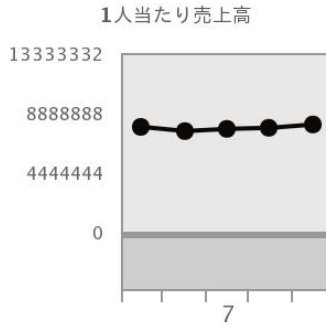
(単位:千円)

	5期	6期	7期	8期	9期
資産合計	15,693	13,656	12,087	11,818	12,077
純資産合計	3,745	2,936	1,880	2,075	3,056
経常利益	440	▲729	▲720	326	1,634
総資本経常利益率	2.80%	▲5.34%	▲5.96%	2.76%	13.53%
自己資本経常利益率	11.75%	▲24.83%	▲38.30%	15.71%	53.47%
当期純利益	360	▲809	▲1,056	196	980
自己資本当期利益率	9.61%	▲27.55%	▲56.17%	9.45%	32.07%

資本効率は投下した資本をムダなく利用できているか見る指標です。

資本全体における自己資本の比率が改善されており、利益を出すことができていたため8期以降グラフが右あがりになっています。

融資をうける、割賦払いで機械を導入するなど社外の資本に頼ることをせず、自社の財産を活用して経営状況を改善させたことがわかります。



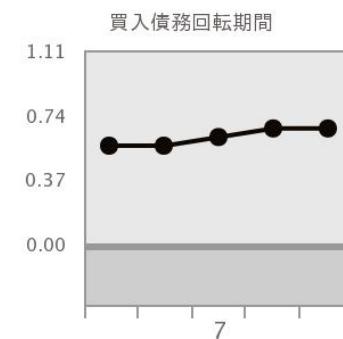
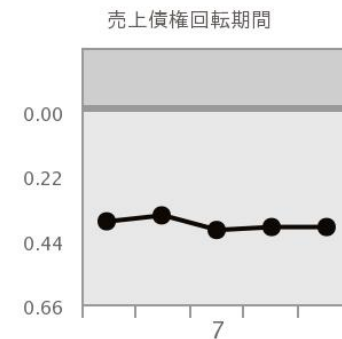
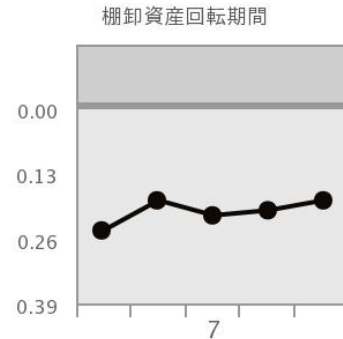
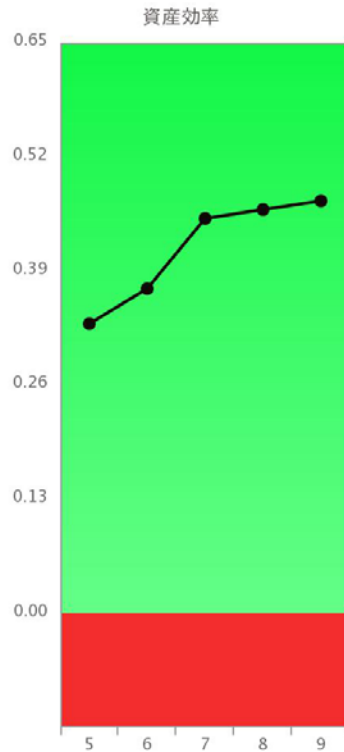
(単位: 千円)

	5期	6期	7期	8期	9期
総従業員数	10人	10人	10人	10人	10人
売上高合計	78,231	75,064	76,662	77,500	80,000
1人当たり売上高	7,823,100円	7,506,400円	7,666,200円	7,750,000円	8,000,000円
売上総利益	31,320	29,533	30,198	30,880	32,165
1人当たり売上総利益	3,132,000円	2,953,300円	3,019,800円	3,088,000円	3,216,500円
経常利益	440	▲729	▲720	326	1,634
1人当たり経常利益	44,000円	▲72,900円	▲72,000円	32,600円	163,400円

生産効率とは人の利用度(効率よく商品の販売ができているか)を把握する指標です。

従業員数が増加していない中で黒字を出せるようになったということは企業体質に変化があったことがわかります。

生産性向上につながった理由を明確に把握することで安定した経営体質を維持することが可能になるため、設備投資により生産性向上なのか又は目に見えない意識レベルなどの大きな変化があったのかといった現状の把握が急務となることははっきりとわかります。



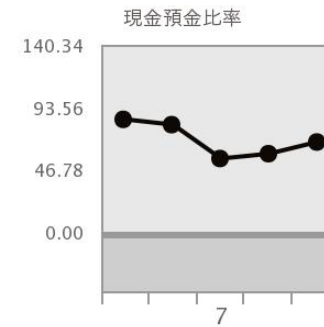
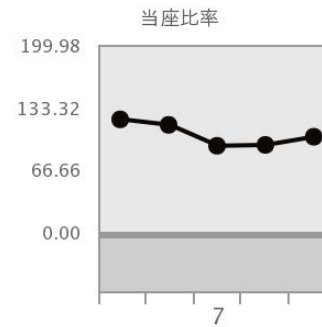
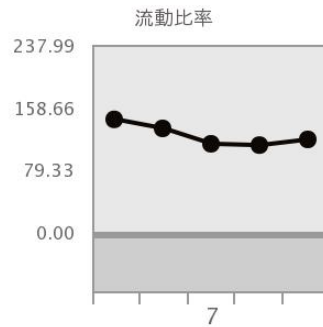
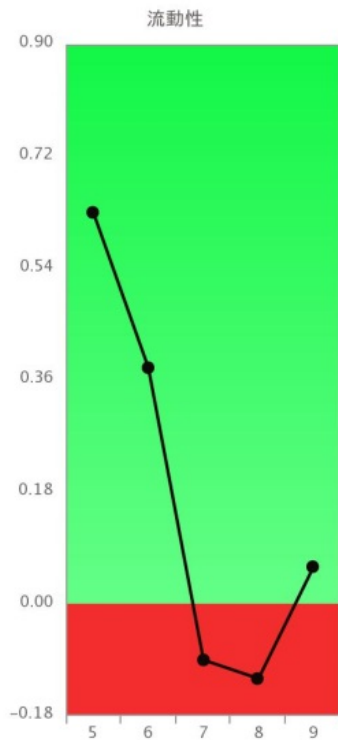
(単位: 千円)

	5期	6期	7期	8期	9期
棚卸資産	1,539	1,112	1,373	1,274	1,205
売上債権	2,415	2,200	2,562	2,548	2,630
買入債務	3,621	3,516	3,871	4,247	4,384
売上高合計	78,231	75,064	76,662	77,500	80,000
月商	6,519	6,255	6,389	6,458	6,667
棚卸資産回転期間	0.24ヵ月	0.18ヵ月	0.21ヵ月	0.20ヵ月	0.18ヵ月
売上債権回転期間	0.37ヵ月	0.35ヵ月	0.40ヵ月	0.39ヵ月	0.39ヵ月
買入債務回転期間	0.56ヵ月	0.56ヵ月	0.61ヵ月	0.66ヵ月	0.66ヵ月

資産効率とは財産の利用度(金・モノなどをムダなく運用できているか)を見る指標です。

売上債権の増加幅は大きくないが買入債務の増加幅が大きいことから、現金収入によるキャッシュの増加が先に来ています。そのためキャッシュの入出金に余裕が生まれています。但し、翌月の債務の支払額も大きくなっているため無計画な支出による資金不足とならないように注意は必要です。

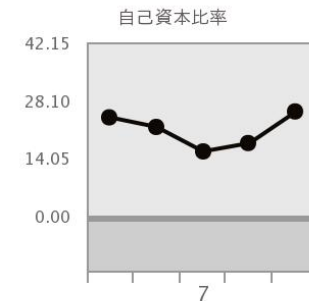
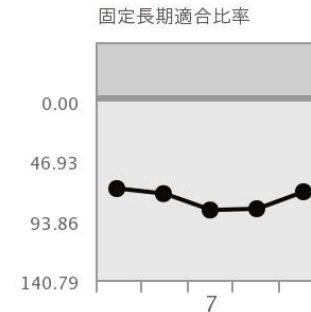
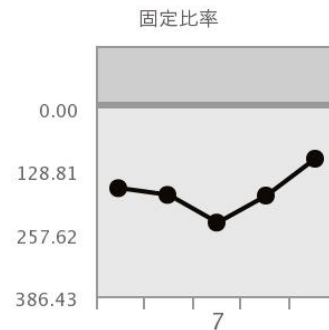
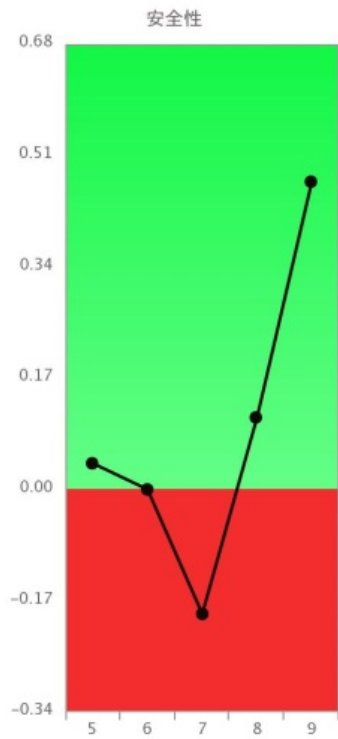
資金繰りに余裕が出たことをチャンスと考え、次の一手を打つことがしやすくなったのではないのでしょうか？



(単位:千円)

	5期	6期	7期	8期	9期
流動負債合計	6,748	6,480	6,927	7,423	7,661
流動資産合計	9,636	8,512	7,728	8,151	8,975
流動比率	142.80%	131.36%	111.56%	109.81%	117.15%
当座資産	8,097	7,400	6,355	6,877	7,770
当座比率	119.99%	114.20%	91.74%	92.64%	101.42%
現金預金	5,682	5,200	3,793	4,329	5,140
現金預金比率	84.20%	80.25%	54.76%	58.32%	67.09%

流動性は企業の短期的な資金繰りを見る指標です。1年以内にお金に変わる債権・債務のバランスを見ることにより資金ショートのリスクの有無がわかります。サンプル社は8期に黒字を出しているにもかかわらず流動性は下がっていることから、利益が出ていてもキャッシュは収入よりも支出が多いことがわかります。9期は改善され右上がりとなっていますので、9期の黒字額を維持できれば資金繰りは益々よくなっていきます。



(単位: 千円)

	5期	6期	7期	8期	9期
純資産合計	3,745	2,936	1,880	2,075	3,056
固定資産合計	6,057	5,144	4,359	3,667	3,102
固定比率	161.74%	175.20%	231.86%	176.72%	101.51%
固定負債合計	5,200	4,240	3,280	2,320	1,360
固定長期適合比率	67.71%	71.68%	84.48%	83.44%	70.24%
資産合計	15,693	13,656	12,087	11,818	12,077
自己資本比率	23.86%	21.50%	15.55%	17.56%	25.30%

安全性は企業がつぶれないか(耐久力や長期的な資金繰り)を見る指標です。サンプル社は自己資本比率が高いわけではありませんが、安定して利益を出すことでもっとよくなっていきます。黒字経営を続け借入金が完済されれば自己資本比率が大きく向上、固定比率・固定長期適合率も良くなり、倒産しにくい会社経営に近づくことができます。